大衆日報

大衆日報社
発行責任者：越川和恵
銚子市春日町3218-1
電　話 0479(25)0030
FAX 0479(25)1100
電子メール
taishunippo@wine.ocn.ne.jp
購読料1カ月1,800円
郵　送1カ月2,700円

ウレシイ しんきん
ちょうししんきん
http://www.choshi-shinkin.co.jp

海匝地区ボランティア研修会

ボランティア200人が参加！

「東日本大震災忘れまじ」と額賀会長

記念講演はガラスリソーシング・赤坂社長

「当社の災害への備え」テーマに熱く語る!!

「3・11の東日本大震災から約8年が経とうとしている今、本日の海匝地区ボランティア研修会では『防災』をテーマに開催します。月日が経つにつれて忘れがちになりますが、当事者の皆さんにとっては忘れられない大災害で、私たちもいつまで経っても忘れてはいけないと思います」と語るのは千葉県ボランティア連絡協議会の額賀勉会長だ。

千葉県ボランティア連絡協議会が主催、銚子市をはじめ旭市・匝瑳市・東庄町など海匝地域のボランティア約200人が参加して『海匝地区ボランティア研修会』が11月7日(水)、銚子市保健福祉センターすこやかなまなびの城で開催。

記念講演は災害用備蓄倉庫「蔵」を備えるガラスリソーシング㈱（銚子市春日町）の赤坂修社長が講師となり、「当社の災害への備え」のテーマで行ない、行政任せではない民間レベルでの災害対策の必要性を説いた。

災害時、地域外ボランティアが働きやすい体制づくりを！

銚子市子ども会育成連盟の柏熊武彦さんの司会進行で開幕した研修会で額賀・千葉県ボランティア連協会長は、

「千葉県では災害の昔と今の比較を進めており、香取市でも防災をテーマにボランティア連絡協議会と地元のボランティアが協議しています。地区外からお出でになったボランティアが"働きやすい体制づくり"をする…これが地元のボランティアの仕事です。ボランティアと災害は切っても切れないもので、本日はガラスリソーシング㈱の赤坂社長様より企業としての災害対応をお聴きし、イザその時が来た時に備えてまいりましょう」と呼びかけた。

伊東社協会長が祝辞

来賓を代表して銚子市社会福祉協議会の伊東好雄会長は、

「本日は遠路はるばる早朝より銚子にお出でくださり、ありがとうございます」と感謝し、

「昨今の異常気象で、日本列島をはじめ世界中で大変な被害が発生しており、尊い命や財産が奪われています。そのようななか、本日の研修会で災害時におけるボランティア活動について考えてまいりましょう。ボランティア活動なくしては復旧・復興はあり得ません。銚子市社協・ボランティア連協も万一の災害時に迅速な対応ができるよう勉強させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします」と呼びかけた。

あいさつする額賀勉・千葉県ボランティア連協会長

あいさつする伊東好雄・銚子市社会福祉協議会々長

伊藤憲一会長の経営理念は「感謝」

講師・赤坂修会長の記念講演を前に、銚子市ボランティア連協の塚本登副会長は、

「講師・赤坂修氏のガラスリソーシング㈱はオーナーの伊藤憲一会長が経営理念の一つに『感謝』を掲げ、その表れとして日頃より地域における災害時の民間企業の役割について、強く実現のために努力しておられます。本日はその活動についてお話を賜ります」と紹介。赤坂社長は、

「皆様にはボランティア活動にご尽力され、大変だと思います。本日は当社の"災害への備え"というテーマです。私は学生時代にあまり授業を聞かない生徒だったもので（笑）、講師をするのが何だかとても不思議です。今日は当社の災害に対する取り組み・備えについてお話しさせていただきます」と述べ、次のように講演した。

廃棄されるガラス瓶を「砂」に戻す発想

【当社の災害への備え】
ガラスリソーシング㈱
社長　赤坂　修

ガラスリソーシングは設立が1998年（平成10年）です。なぜこの会社ができたか？伊藤憲一会長は会社を始める4～5年前にサントリーの環境部長と会う機会があり、そこで「平成7年に容器包装リサイクル法ができる。ガラス瓶が透明と茶色は瓶に戻るが、色付き瓶のリサイクルの道がない」という話を聞いたんです。伊藤会長は「これは新しい法律のもとで、日本で初めての色付きガラスをリサイクルする会社を作ろう」ということで、会社を始めました。

平成7年から容器包装リサイクル法ができ、平成9年に施行。伊藤会長は26年間ヒゲタ醤油に勤め、ガラス瓶を扱ってきましたので瓶にとても詳しい。瓶を使った後、全国で廃棄されてしまうことに胸を痛め、銚子市にガラス瓶のリサイクル工場を作ろうと考えた。当時の大川市長に相談し「醤油工場が多く、廃棄される瓶が多い銚子市にはガラスをリサイクルする会社が必要だ」とアドバイスをいただき、決意を固めました。

「当社の災害への備え」をテーマに記念講演するガラスリソーシング㈱の赤坂修社長

会社設立当初は難航

会社をスタートしたのはいいんですが、最初の頃は大変でした。ガラス瓶のリサイクルが始まった時ですから、毎日仕事がないくらい瓶が少なかった。銚子市の応援、県の指導のもと、ガラス瓶を何にリサイクルするのか？を熟考。ちょうど日本のなかで一社、経済産業省が推していた会社…ガラス瓶をリサイクルしてブロックを作ったりタイルを作ったりしていた。確かにガラス瓶がそういうものに変わるのはカッコイイと思ったんですが人真似はしたくない。

ガラス瓶は珪砂という砂からできているんです。だから我々は「ガラス瓶に戻すのではなく、原料の"砂に戻す"リサイクルをしよう」と決めました。ただ砂と言っても県も市も認めてくれません。一番最初に銚子市に行き「当社がガラス瓶をリサイクルして開発したサンドウェーブ、工事用の砂として使えるんですが、役所でどうですか？」と売り込んだんですが、使ってくれない。次に県へ行きましたが、「県では決められないので、国へ行ってくれ」と言われ、国土交通省の松戸技術センターへ。そこで登録を済ませ、技術的なことを認めてもらいました。逆に県・市へ認証を持ち帰り、リサイクルした砂を使ってもらおうと思いましたが、現実はそんな簡単なものではありません。

役人の方は、自分が担当の時に"新しいもの"を持って来てもらいたくないんですね（笑）。持って来ると使った時、もし何かあったら自分のせいになり、出世がなくなりますから…。我々としては絶対に問題が起きないような形で持って行ってるんですが、現実はなかなか難しい。そういうなか、国交省の監督官が「東京・有明の湾岸道路の液状化対策工事で、地盤改良したい。赤坂社長、俺が使わなかったらサンドウェーブは世に出ないよ」とおっしゃり、使ってもらいました。工事を半分に分け、半分は従来の砂で、半分は当社のサンドウェーブという形でやってもらいました。平成13年に初めて国交省が使ったのがスタート。「いろいろな試験に1800万円が必要だ」と言われましたが、私は「お金ないですよ」と。その後、国がお金を出したか業者が出したのかわかりませんが、さまざまな試験の後「これは普通の砂と変わらない、透水性もいい良い砂だ」と認めていただきました。現在はガラス瓶は関東一円の170市町村と取り引きし、5万トンぐらいのガラス瓶が来ています。

左から岡野悦子・銚子市ボランティア連協会長、平野嘉一・旭市ボランティア連協会長ら

海匝地域のボランティア２００人が集結！

講師紹介を塚本登・銚子市ボランティア連協副会長

司会進行を担当する柏熊武彦さん

災害用備蓄倉庫「蔵」の建設

▼民間企業としての災害への備え

平成23年3月11日の東日本大震災では固い岩盤の上に位置する銚子市でも強い地震と津波による被害が発生し、「当たり前」のように過ぎていく日常生活に対する「安心感」が崩れ落ちた瞬間でした。一時的ではありましたが、断水、停電、食料品や燃料の不足、いつ終わるか分からない余震の恐怖の中で、何事もなく過ぎていく日常のありがたさを痛感しました。

当社では3・11以前から災害用備蓄を社員の増加に伴い行なってきましたが、この震災を教訓として、社員・家族・地域住民のために地域では初めてとなる災害用備蓄倉庫「蔵」を平成28年3月に建設。市民生活の不安を少しでも軽減し、安心感を取り戻すお手伝いができれば…と考えました。

▼なぜ「蔵」か？

蔵は火災などに強く大切なものを蓄えておく場所であり、災害発生時に地域住民が一次避難する際に「蔵へ急いで避難！」と迷わず集まれるように考えました。

ヒゲタ醤油創業者の田中玄蕃様は、早くから漁業と醤油醸造業を営み巨富を築きました。日本の豪商に入っており、銚子市で災害があった時、玄播様が自分の蔵から私財を提供して、市民が助かったと言い伝えられています。当社の伊藤会長もヒゲタ醤油に中学卒業後26年間勤めたという思いがあり、災害用備蓄倉庫「蔵」を考えました。

▼災害用備蓄倉庫「蔵」

災害時には公的支援が届くまでの間、社員・家族・近隣住民に対し「蔵」を開放して避難者の受け入れ、備蓄された食料・生活物資などを提供していくことも企業の地域貢献であると考えます。銚子市と「災害時における防災備蓄物資の提供協力等に関する協定」を平成28年に結び、平成29年には危機管理棟を建設して銚子警察署と「防災に関する協定」を締結。

「蔵」は日本古来のなまこ壁を採り入れ、安心を感じていただけるようなデザインにしました。

「蔵」の建設と合わせ、自家発電機の設置、飲料用井戸（深さ100m）を掘り、生活用水も確保しました。

若手企業家の議論の場にも

建設趣旨に賛同した銚子の将来を背負う世代の若手企業家約30名が「蔵」の多目的ホールに集まり、大学の危機管理学部教授を迎え、防災・減災について勉強会を開き、意見交換も行なっています。今後、研鑽を積んだ若手の意見が、各企業がそれぞれに応じた災害用備蓄倉庫の建設を検討する際の指針となり、また企業からの求めに応じて適切に助言することができる力を持ち、さらにこれら施設のネットワーク化が図れるよう、「蔵」を議論する場として活用していきます。

＊　＊　＊

講師の赤坂社長は東北豪雨水害における常総市の対応についても解説し「東日本大震災の経験を忘れずに、地震・津波災害だけでなく、あらゆる災害に対して対処できる備えをしていくことが必要と考えています」と講演を結んだ。

若柳衣美会による日本舞踊

花柳寿々三奈師匠が日本舞踊を披露

「稲村の火」の紙芝居上演

その後、昼食を挟んで若柳衣美会・花柳寿々三奈師匠の日本舞踊、プアレイホークーさとこ・フラダンス・スタジオのフラダンスがアトラクションとして披露！活動報告では銚子市の朗読グループひまわりが「稲村の火」の紙芝居を上演して反響を呼んだ。

プアレイホークーさとこ（多部田恵子）先生がフラダンスを披露

お詫びと訂正

本紙11月17日（土）付第4面「船木小で食育」の記事で「銚子市内の小・中学校では毎月1日が"お弁当の日"に指定され」とありましたが、お弁当の日は現在「6月1日と11月1日」の2回でした。関係各位にお詫びし、訂正致します。

空きベッドあります！
グループホーム「やわら」
※ベッドは「やわら」でご用意しています。（銚子市後飯町3-18）
ただ今、若干名の受け入れが可能です。
詳細はお問い合わせ下さい。
☎0479-21-6035
三河接骨院　銚子市外川町1-10697　☎0479-25-3295

イオンモール ブラックフライデー
BLACK FRIDAY　あす 11・23FRI-25SUN
11.23(金)先着限定　BLACK CURRYプレゼント
バーっと無料でプレゼントしちゃうニーダ！
※なくなり次第終了となります。※お一人さま1個限りとなります。
※返品・交換はお受けできません。あらかじめご了承ください。
配布時間：11.23(金) 10:00～　配布場所：2階 フードコート前特設会場　先着個数：500個
イオン ブラックフライデー限定デザイン!!
今年のブラックフライデーは、96価格・46価格ほか、スペシャルプライスが続々!!

イオンモール ブラックフライデー
BLACK FRIDAY
千葉のイオンモール限定
5人に1人がその場で当たる!! スピードくじ
11/23(金・祝)・24(土)に館内の専門店でお買上げいただいたレシート税込5,000円ごとにスピードくじ1枚と引き換え！
※おひとりさま1日最大5枚まで
アタリ → 当日500円のお買い物券GET → Wチャンス！25日再来店で500円のお買い物券GET
ハズレ →
スピードくじお渡し期間　11/23(金・祝)　先着400枚　11/24(土)　先着400枚
会場・時間　2階 ダイソー前 10:00～18:00
Wチャンス　11/25(日)
会場・時間　2階 ダイソー前 10:00～18:00
※各日先着に達し次第終了いたします。※11/23(金・祝)・24(土)に館内の専門店でお買上いただいたレシート税込5,000円ごとにスピードくじ1枚の進呈となります。※スピードくじはおひとりさま1日最大5枚までの進呈となります。※11/23(金・祝)・24(土)のレシートは合算可能です。※直営店のレシートは対象外となります。その他一部レシート対象外店舗もございます。
イオンモール銚子　〒288-0815 千葉県銚子市三崎町2丁目2660-1　TEL.0479-20-0400(代表)
●ホームページ　http://www.aeon.jp/sc/choshi/